

泉パークタウン第6住区開発計画【事後調査報告書(案) (東工区存在)】
事後調査結果の概要

【評価書からの変更内容 (東工区竣工後の事後調査項目)】

- ・仙台市環境局との協議を踏まえ、竣工後に実施する調査項目 (存在, 供用) のうち「存在に係る項目」について、東工区竣工後に事後調査可能な項目を先行して実施することとした。
- ・具体的事後調査項目は、以下のとおりである。

*東工区竣工後の事後調査項目は、工区を分割しても予測結果との比較・検証が可能な以下4項目である。

「水象」
「地形・地質」
「景観」
「温室効果ガス等」

*全区を対象に予測を行っている項目 (植物, 動物, 生態系) は、当初の計画どおり全区完了後に実施する計画である。

- ・なお、供用に係る項目は評価書時から変更はなく、全区画入居後に実施する計画である。

存在に係る調査項目と調査範囲の分割可否の検討

事後調査項目 (存在項目のみ)	調査時期	事後調査を工区ごとに実施できるか		【方針】 東工区竣工後の実施方針		
		○:可 ×:不可	理由			
水象	河川流・湖沼 (河川流量の変化)	工事が完了した時期から1年間の梅雨期～秋雨期	○	地点別に現況調査、予測していた為、工区を分割した事後調査が可能。	東工区側の調査地点のみ実施	
	変更後の地形、樹木伐採後の状態、変更後の河川・湖沼、工作物等の出現	河川流・湖沼 雨水流出係数の変化、雨水の地下水浸透状況の変化)	工事が完了した時期	○	概ね、工区分割線が流域境界にある為、工区ごとの事後調査(資料整理)が可能。	東工区側の調査地点のみ実施
		地下水・湧水 (地下水位の変化)	工事着手前の1年間 工事が完了した時期から1年間	○	地点別に現況調査、変更前の調査を実施していた為、工区を分割した事後調査が可能。 ※工事着手前調査は、東工区側のみ、H28・H29に実施済み。	東工区側の調査地点のみ実施
		水辺環境 (水辺環境の消失量、自然性・親水性変化の度合い)	工事が完了した時期から1年間 (4季)	○	地点別に現況調査、予測していた為、工区を分割した事後調査が可能。	東工区側の調査地点のみ実施
地質・地形	変更後の地形	現況地形、土地の安定性	調査期間は工事が完了した時期の1回	○	断面別に予測していた為、工区を分割した事後調査が可能。	東工区側の調査地点のみ実施
植物	変更後の地形	植物相及び注目すべき種	工事が完了した時期から1年間 (4季)	×	現況調査、予測は全区を対象としており、東工区側のみ調査行っても、予測結果の検証ができない。	当初計画どおり、全区工事完了後に実施予定
		樹木伐採後の状態	樹木・樹林等	工事完了5年後		
	環境保全措置の実施状況		調査期間は工事が完了した時期の1回	×		
動物	変更後の地形	動物相及び注目すべき種	・猛禽類以外の分類群は工事が完了した時期から1年間 ・猛禽類は工事完了後の1繁殖期(2月～8月)	×	現況調査、予測は基本的に全区を対象としており、東工区側のみ調査行っても、予測結果の検証ができない。	当初計画どおり、全区工事完了後に実施予定
			環境保全措置の実施状況	調査期間は工事が完了した時期の1回		
生態系	変更後の地形	動物相及び注目すべき種、注目すべき生息地	植物・動物の事後調査の調査期間と同様	—	植物、動物に依う	当初計画どおり、全区工事完了後に実施予定
			環境保全措置の実施状況	—		
景観	変更後の地形	眺望	工事が完了した時期及び全区画入居した時期 (それぞれの時期に展業期と落葉期)	○	地点別に現況調査、予測を行っている為、工区を分割した事後調査が可能。	東工区側の調査地点のみ実施
温室効果ガス	森林伐採後の状態	二酸化炭素	工事が完了した時期の1回	○	予測は全区を対象にしているものの、必要なパラメータは変更面積のみである。したがって、予測結果を分割することも可能となる為、工区を分割した事後調査が可能。	東工区側の調査範囲のみ実施

【事後調査結果】

- ・前述の事後調査計画に基づき、本事後調査では、東工区の竣工に伴い環境影響が想定される4項目 (「水象」「地形・地質」「景観」「温室効果ガス等)」について、事後調査結果、予測結果との比較・検証について整理した。事後調査結果の概要は、次ページに示すとおりである。
 - ・事後調査結果を予測結果と比較・検証した結果、いずれの調査結果も予測結果と同程度、もしくは環境に影響を与えるような結果ではなかった。
- さらに、評価書に記載の環境保全措置についても実施されていることから、追加の保全対策は必要ないものと判断した。

事後調査項目		事後調査結果	予測結果との比較・検証
水象	河川流・湖沼	<p>【晴天時】 七北田川への地下水の流入量は、0.0366m³/sであった。</p> <p>【降雨後】 地表水の流入量は、地点3で0.232m³/s、地点4で4.136m³/s、地点6で0.475m³/sであった。</p>	<p>【晴天時】 事後調査結果の流入量は、予測結果の0.0274m³/sより大きい値となり、現況から予測結果の減少量より、事後調査結果のほうが七北田川への地下水の流入量の減少量が小さい結果となった。これは、全工区施工の計画から東工区のみでの分割施工となったことから、現状では東工区以外（中央・西工区相当分）が山林の状態から変化がないことが大きな要因である。</p> <p>【降雨後】 予測結果は地点3で0.206m³/s、地点4で3.936m³/s、地点6で0.484m³/sであり、事後調査結果は、<u>予測結果と同程度</u>であった。</p>
	地下水・湧水	<p>【地下水】 調査を実施した結果、 では降雨に連動した水位変動であった。 においては、地下水位は概ね一定であった。</p> <p>【湧水】</p>	<p>【地下水】 事後調査結果は、 では予測結果と同程度、 では予測よりも影響が小さかった。 なお、事業の実施に起因するような水位低下等の特異な変動はみられていない。</p> <p>【湧水】</p>
	水辺環境	<p>1地点(地点6)で調査を実施した結果、当該調査地点は直接改変される箇所ではなく、自然性の変化はほとんどなかった。また、親水性については、工事着工前から一般利用者が水辺を親しむことのできる環境ではない。</p>	<p>事後調査結果は予測結果と同程度であり、水辺環境の消失量及び、自然性・親水性変化の割合は小さかった。</p>
地形・地質	現況地形	<ul style="list-style-type: none"> ・改変面積は、切土が23.3ha、盛土が25.4haであった。 ・土工量は、切土量が278.6万m³、盛土量が270.6万m³であった。 	<p>事後調査結果について、<u>改変面積及び土工量は予測結果と同程度</u>であった。</p>
	土地の安定性	<p>切土断面、盛土断面の安定性を調査した結果、いずれも安定性は確保されていた。</p>	<p>事後調査結果は、<u>予測結果と同程度</u>であった。 【事後調査報告書（工事中その2）で報告済み】</p>
景観	眺望	<p>10地点(地点2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 11, 13, 14)で調査を実施した結果、地点5, 地点9, 地点11, 地点14を除く6地点で改変区域が視認された。</p>	<p>事後調査結果は、地点5, 地点6, 地点9及び地点11を除く6地点は概ね予測結果どおりであった。地点5, 地点9及び地点11の主な視認景観は中央・西工区であり、現況との変化がみられなかった。地点6は東工区の東側が、住民からの要望により倒木の可能性のある樹木を処理したことから予測結果と一部異なった。ただし、植栽による緑化を行ったことで周辺環境と調和した景観を形成していることから、改変後の景観への影響は小さかったものと評価した。</p>
温室効果ガス等	二酸化炭素	<p>東工区の緑被地面積は40.02ha消失し、二酸化炭素吸収量の減少量は2,893.9tCO₂/年であった。</p>	<p>事後調査結果は、<u>予測結果（東工区の二酸化炭素吸収量の減少量：2,917.9tCO₂/年）と同程度</u>であった。</p>